

## 第11回NPT再検討会議第3回準備委員会NGOセッション（4月30日）

### 松井平和首長会議会長（広島市長）スピーチ

皆様、こんにちは。平和首長会議会長を務めている広島市長の松井一實です。平和首長会議を代表して発言する機会を与えていただいたことに感謝を申し上げるとともに、本準備委員会の開催に向けて尽力された関係者の皆様に敬意を表します。

1945年8月6日に、人類史上初めて広島へ原爆が投下され、一瞬にして広範な地域で、壊滅的な人的被害を受け、まちが灰燼と化してから、核兵器は絶対悪であり、非人道性の極みであるということを市民社会において広く周知するための取組が行われる中で、80年が経過しようとしています。それにもかかわらず、現在も地球上には1万2,000発を超える核兵器が存在し、核保有国を中心に、自分たちの国を守るためには核兵器の保有や核シェアリングなどは有効であるとの考え方が広がっています。我々は、こうした考え方は核兵器使用の可能性を高めるうえにNPTの原則に背き、更には第二次世界大戦後に目指した平和構築体制、すなわち国際連合そのものを揺るがしかねないものであると非常に危惧しています。

昨年の日本被団協のノーベル平和賞受賞は、被爆者の方々の、自らの辛い体験や憎しみを乗り越えた末に、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という願いを、人類全体の平和を願う崇高な理念へと昇華させ、強い決意を持って、被爆の実相や核兵器の非人道性を世界中に訴えてきたことが高く評価されたものであり、国際情勢に対する危機感の表れにほかなりません。

こうした被爆者の願いを受け継ぐ組織として、世界の都市が国境を越えて連帯し、共に核兵器廃絶への道を切り開くため、1982年に設立された平和首長会議は、今や世界の約8,500の都市が加盟する国際的な平和都市のネットワークに成長しました。

今、市民一人一人が音楽や美術、スポーツなどを通じ、日常生活の中での交流によって、他者と経験や価値観を共有し、「信頼の輪」を育み、「安心の輪」を広めていくことで、争いを生み出す疑心暗鬼を消し去ることが急務となっています。平和首長会議は、市民社会の平和意識の醸成と、「平和文化」に満ちた世界の創造に向けて全力で取り組みます。各国政府代表の皆様には、核抑止力に依存することなく、平和を願う市民社会の声に耳を傾け、対話による平和的解決に向けた外交政策への転換を為政者に促し、核軍縮・不拡散措置を確実に実行して下さることを心から期待しています。